

お父さんのチャーハン

阪上 修瀬
さかうま しゅうせ

お父さんは休みの日に、よくチャーハンを作ってくれる。学生の時にラーメン屋でアルバイトをしていた事があり、そこから改良した自まんのチャーハンみたい。そして、ぼくはそのチャーハンが大好きだ。

でも、この間お父さんにしかられた後、作ってくれたチャーハンを食べようか食べないでおこるかまよった。

お父さんは、しかった理由もきちんと話してくれて、途中でやっぱりぼくが悪かったのだと気付いたけれど。

最初にぼくは悪くないと思って、必死に言いわけしていた分、す直にあやまれない。ましてやチャーハンにつられたと思われるのもくやしい。ぼくも男だし。

だから、「食べたくない。」と言って、部屋にこもっていた。でも、ぼくの大好きなたまごがいっぱい入ったチャーハンとおいしそうなおいにつられて、こっそり部屋を出た。

テーブルにぼくの分のチャーハンが置かれていたので、ぼくは小さな声で「いただきます。」を言って、モヤモヤしたまま、チャーハンを食べた。

「あー。やっぱりおいしい。」

ふてくされていた事もわすれてしまいうくらい。たまごがたくさん入ったチャーハンをスプーンで口に運ぶたび、意地をはっていたことがだんだんはずかしくなった。

お父さんもぼくにはらが立つたはずなのに、どうしてぼくのごはんを作ってくれるんだろう。ぼくなら作りたくないな。だって、負けたみたいでくやししいし。

それをお父さんに話したら、「ケンカをしてしまった時、自分からあやまつたら負けと思うのはちがうと思うな。先にあやまるきっかけを作れた方が人間としても男としてもカッコいいと思うよ。」だって。

そう話すお父さんはたしかにいつもより何倍もカッコ良く見えた。

チャーハンを食べ終わったあと、ぼくは大きな声で「ごちそうさまでした。」と一緒に「お父さん、さつきはごめんなさい。チャーハン作ってくれてありがとう。」

と言ったら、今度はお父さんが、「こちらこそ、残さず食べてくれてありがとう。」とぼくに負けないくらい大きな声で返してくれた。

ぼくは、なんだかとてもうれしくなって、ぼくもお父さんもお母さんもみんなニコニコ笑顔になった。

「ありがとう」を言ったあとは、さつきまでのモヤモヤもなくなり、すっきりしてとても気持ちよかった。

「ありがとう」って、言った方も言ってもらえた方もみんなが笑顔になるまほうの言葉だと思う。

お父さん、いつもおいしいチャーハンを作ってくれてありがとう。またぼくにも特製チャーハンを作り方を教えてね。大きくなったら、ぼくがお父さんに作るから。